

令和4年度 岡崎市予算編成方針

基 本 方 針

政府は、「経済財政運営と改革の基本方針 2021」において、今後とも感染拡大防止に全力を尽くし、医療提供体制の強化やワクチン接種を促進していくことにより、感染症を乗り越えて、経済をコロナ前の水準に早期に回復させるとともに、グリーン、デジタルなど成長分野で新たな雇用や所得を生み、多様な人々が活躍する「成長と雇用の好循環」の実現を目指すとしている。

このような中、令和4年度は、第7次総合計画に掲げる各施策を通して、福祉・医療、防犯・防災、環境、コミュニティ、教育など市民生活を支える基本施策はしっかりと取り組みながら、将来にわたり成長する持続可能なまちづくりに取り組むとともに、大河ドラマ「どうする家康」を契機とした地域活性化や本市の魅力向上に取り組んでいく必要がある。加えて、DX（デジタルトランスフォーメーション）やグリーン社会の実現など、社会環境の変化にも的確に対応する必要がある。

予算編成において、歳入では、コロナ禍の長期化による本市財政への影響は甚大であり、市税収入の水準は、コロナ前の状態を下回り、先行きは不透明であることから、厳しい状況が見込まれる。一方、歳出では、増加を続ける社会保障関係経費、老朽化した公共施設の保全工事や公債費の伸びなどに対応するほか、新型コロナ対策や「新たな日常」などの社会環境の変容を踏まえた行政のデジタル化などへの対応も求められている。

以上のことから、歳入は、例年以上に、特定財源の確保、財政調整基金を始めとする各基金や市債の積極的な活用により財源確保を図ることとする。歳出は、限られた財源を有効に活用する観点から、市民ニーズの的確な把握、客観的な根拠、適正な受益者負担に基づき、すべての事業の成果を厳しく検証し、スクラップ・アンド・ビルドにより、財源確保に努めるとともに、多額の不用額が生じないよう予算精査を行い、持続可能な財政運営を目指した予算編成を行うものとする。